

インドの古典文明

インドの人々は、大きくアーリア人とドラヴィダ人にわかれる。古くから異民族が侵入をくり返したが、侵入した民族は、それまでの社会の影響を受けつつも完全に同化されてしまうことはなかった。こうしてインド社会は、多くの民族・言語・宗教が共存する独自の世界を形成するようになった。

○インダス文明

●インドの人々

現在のインドの人々は次の2つに大別される。

- ①アーリア人
- ②ドラヴィダ人

●最古のインド文明

前 2300 年頃～前 1800 年頃、ドラヴィダ人（≠アーリア人）の人々がインドの最古の文明⁽¹⁾ _____ を築いた。

⇒この文明の都市計画は、インダス川流域の⁽²⁾ _____ や⁽³⁾ _____ などの遺跡に残っている。

◇(2)…レンガ造りの住宅・沐浴場（大浴場）や、排水施設を備えた遺跡

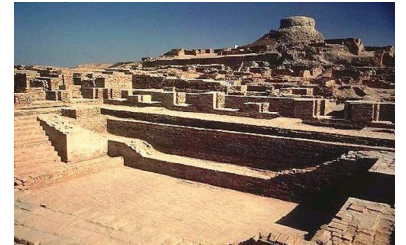


遺跡からは、インダス文字が刻まれた印章^{いんしょう}などが見つかった。

⇒インダス文字は現在未解読である。



インダス文明



モエンジョ＝ダール



インダス文明の印章

○ヴェーダ時代

●アーリア人の移動

前 1500 年頃、⁽⁴⁾ _____ 人がインド北西部に侵入した。

→アーリア人は雷や火などの自然神を崇拜^{すうはい}し、多くの祭祀^{さいし}をおこなった。

称号を与えられた。

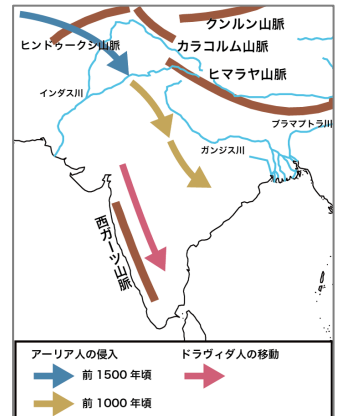
⇒その神々への讃歌^{さんか}の集成が『⁽⁵⁾ _____ 』である。



前 1000 年頃、アーリア人は肥沃なガンジス川上流域へ移動し始めた。

→アーリア人は、先住民から農耕技術を学び、定住の農耕社会を形成した。

⇒生産の余裕から、王侯・戦士・司祭など、生産に従事しない階層も現れた。



民族の移動

●ヴァルナ制とジャーティ

人々を次の4つの基本的身分で区別する⁽⁶⁾ _____ 制が生まれた。

- ①⁽⁷⁾ _____ …最高位の身分である司祭階級
 …⁽⁸⁾ _____ は、彼らがヴァルナ制の肯定・維持のために
 複雑化させた宗教
- ②⁽⁹⁾ _____ …戦士階級
- ③⁽¹⁰⁾ _____ …一般庶民階級
- ④⁽¹¹⁾ _____ …先住民などの被征服民が該当し、他の身分に奉仕する隷属民階級

↓
共通の職業を単位とする集団があり、他の集団の者と結婚したり食事たりすることが制限された。

⇒この集団を⁽¹²⁾ _____ と呼ぶ。

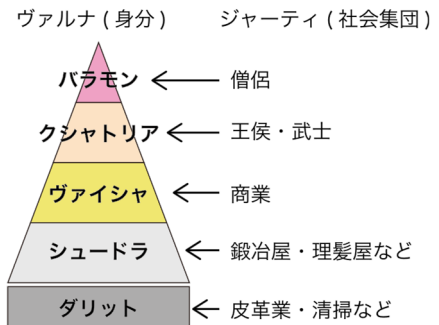
↓
ヴァルナ制とジャーティが結びつき、今日の⁽¹³⁾ _____ が形成された。

◇カースト

…ヨーロッパ人による呼び名に由来（「血統」を意味するポルトガル語が語源）

バラモン教—アーリア人の支配を支えた宗教

ヴァルナ制の上位3階級はアーリア人で、下位のシュードラはドラヴィダ人で構成された。バラモン教の祭祀で上位3階級は死後に生まれ変わる（輪廻転生）ができ、再生族と呼ばれた。生前に現階級での不条理に耐えることが良い行いで、それに応じて転生時に階級を変えられるとされた。シュードラは祭祀に参加する教育を受けられず、生まれ変わらないとされた。



○ヴェーダ時代以降

●新たな宗教の成立とバラモン教の改革

<仏教>

仏教は、⁽¹⁴⁾ _____（尊称：^{ぶつだ} 仏陀）に創始された。

→ガウタマは、動物を犠牲に捧げる^{くぎ} 供犠、難解なヴェーダ祭式、バラモンを最高位とするヴァルナ制を否定した。

⇒やがてガウタマは、バラモン教の教えとは別に、輪廻転生からいかに脱却するかを説いた。

◇輪廻転生

…人が何度も生死を繰り返し、新しい生命に生まれ変わるという考え

<ジャイナ教>

ジャイナ教は、⁽¹⁵⁾ _____ に創始された。

⇒ジャイナ教は、ヴェーダ聖典の権威やバラモン教を否定し、苦行と^{ふせつしよう} 不殺生を強調した。

<バラモン教>

バラモン教を否定する動きに対し、バラモン教に改革運動が生じた。

⇒祭式至上主義から内面の思索を重視する探究⁽¹⁶⁾ _____ が始まった。

●都市国家の成長

前6世紀頃、城壁で囲まれた都市国家がいくつか生まれた。

⇒その中から⁽¹⁷⁾ _____ やガンジス川流域を統一した⁽¹⁸⁾ _____ が有力となった。

↓
マガダ国では、この頃に成立した新しい宗教⁽¹⁹⁾ _____ や⁽²⁰⁾ _____ を保護した。